

The Kita Osaka Shinkin Bank



北おおさか信用金庫
景況レポート

2024年10～12月期 **No.44**

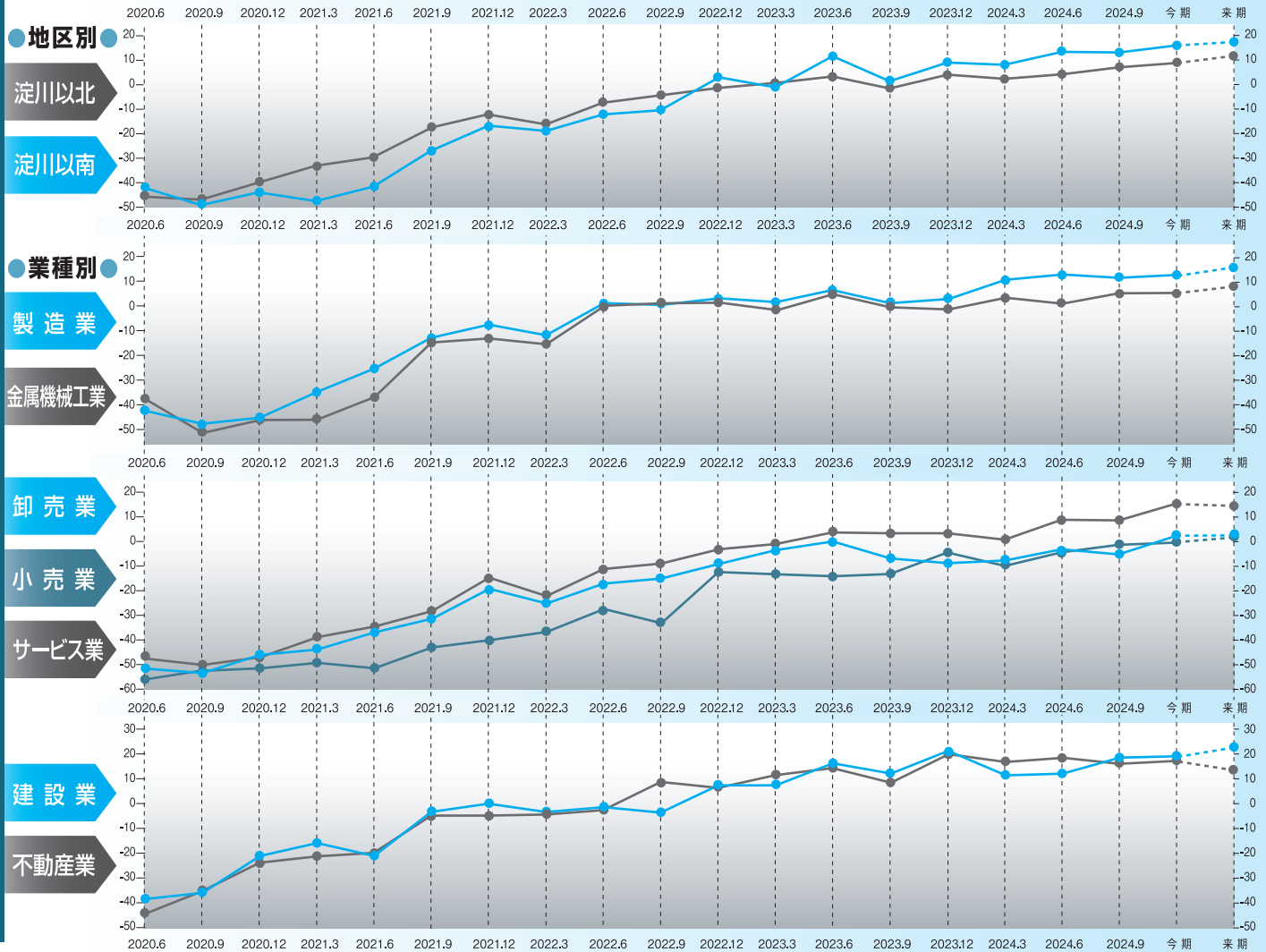
Business Condition Report



この街の未来をひらく

北おおさか信用金庫





INDEX

地区別・業種別 業況判断DII 来期予想までの推移・目次	1
調査概要	2
全業種総合	3・4
製造業	5
金属機械工業	6
卸売業	7
小売業	8
サービス業	9
建設業	10
不動産業	11
特別調査「2025年(来年度)の見通しについて」	12・13・14

〈調査概要〉 調査対象……………地元企業 1,200社(有効回答1,200社)
 調査時期……………2024年12月
 調査対象期間…2024年10月～12月期 当期の実績(2024年7月～9月期との比較)
 2025年1月～3月期 来期の見通し(2024年10月～12月期との比較)
 調査方法……………当金庫職員による調査表に基づく聞き取り調査
 分析方法……………DI(ディフュージョン・インデックス)を中心とした分析

●DIとは

各調査項目について「良い」「増加」「上昇」「過剰」「楽・容易」の回答割合から、「悪い」「減少」「低下」「不足」「苦しい・難しい」の回答割合を差引いた数値です(普通、変わらず、適正は除外しております)。

(例) 良い10%、やや良い20%、普通30%、やや悪い15%、悪い25%の場合

①良い = 良い10% + やや良い20% = 30%

②悪い = 悪い25% + やや悪い15% = 40%

DI = ① - ② = ▲10

●調査内容と注意点

- (1) 売上額、収益、受注残高、販売・仕入価格、在庫、資金繰り、残業時間は前期と比べた当期の状況(来期見通しは当期と比べた来期予想)です。
- (2) 業況、人手、借入の難易度は、前期比ではなく、その時点での状況です。

●各判断DIが示す内容

	(プラス)	(マイナス)
業 況	現状 「良い」	現状 「悪い」
売上額・収益	前期比「増加」	前期比「減少」
受注残高・残業時間	前期比「増加」	前期比「減少」
販売価格・仕入価格	前期比「価格上昇」	前期比「価格下降」
(原材料)在庫	前期比「過剰」	前期比「不足」
資金繰り	前期比「楽」	前期比「苦しい」
人 手	現状 「過剰」	現状 「不足」
借入の難易度	現状 「容易」	現状 「難しい」

※DIプラスが良いとは限りません(例:仕入価格判断DIプラスは前期比価格上昇)

■対象企業の業種・従業員別構成

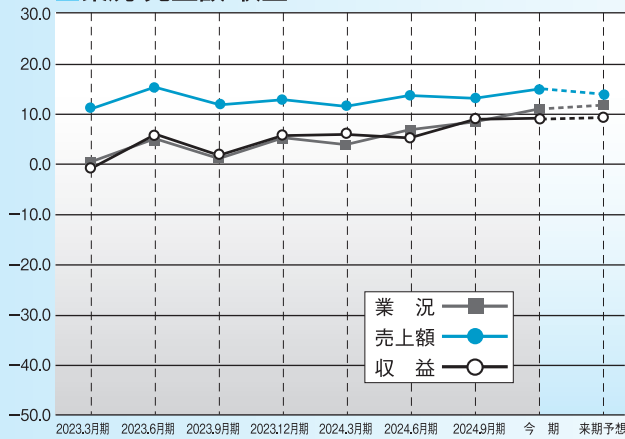
	4名以下	5～9名	10～19名	20～29名	30～49名	50～99名	100名以上	合 計(構成比)	
製 造 業	33	57	45	22	19	19	5	200	16.7%
金属機械工業	66	51	30	25	15	7	6	200	16.7%
卸 売 業	48	30	26	7	6	2	1	120	10.0%
小 売 業	68	38	18	8	4	9	5	150	12.5%
サービス業	54	41	28	21	24	21	11	200	16.7%
建 設 業	60	61	49	16	6	5	3	200	16.7%
不 動 産 業	76	41	8	—	3	1	1	130	10.8%
合 計	405	319	204	99	77	64	32	1,200	100.0%
(構成比)	33.8%	26.6%	17.0%	8.3%	6.4%	5.3%	2.7%	100.0%	—

*製造業の構成比が他5業種と比較して大きいため、製造業のうち金属機械工業を1業種として分割しております。

●調査地域●

淀川以北:島本町、高槻市、茨木市、吹田市、摂津市、豊中市、箕面市、池田市、伊丹市、尼崎市、東淀川区、淀川区、西淀川区 他 淀川以北
 淀川以南:寝屋川市、門真市、守口市、北区、西区、中央区、城東区、旭区、住吉区、此花区、福島区 他 淀川以南

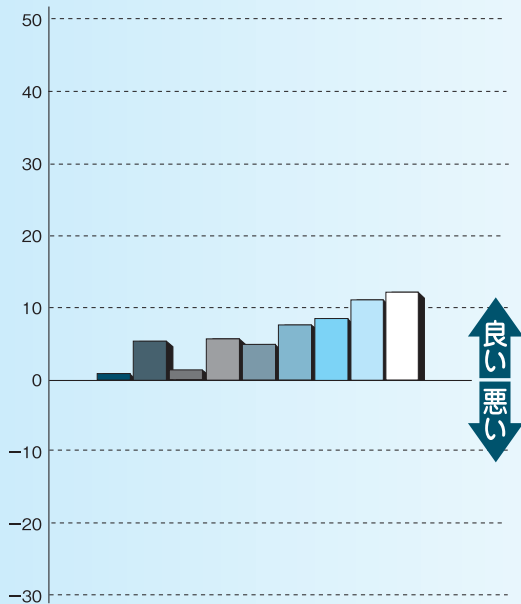
業況・売上額・収益



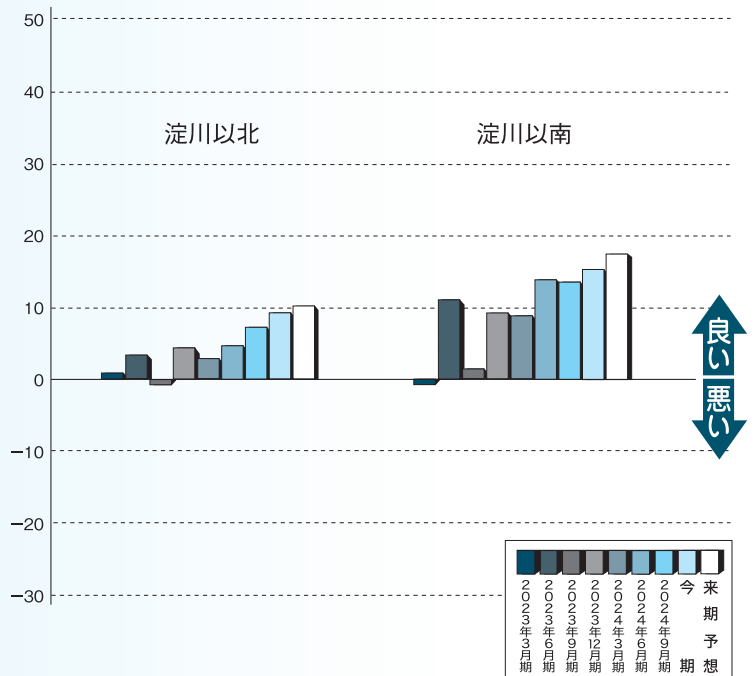
全業種総合 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	0.5	5.3	1.6	5.5	4.3	7.2	8.6	11.0	12.1
売上額	11.3	15.5	12.5	13.3	12.0	14.1	13.5	15.1	14.7
受注残	11.0	8.3	10.7	12.5	12.7	9.5	13.7	13.5	11.8
施工高	17.1	17.0	23.0	29.0	25.0	24.0	23.5	20.5	21.0
収益	-0.9	5.8	2.4	5.8	6.3	5.8	9.1	9.3	9.6
販売価格	33.2	28.6	32.3	30.4	29.2	31.4	27.7	30.8	26.2
原材料・仕入価格	55.4	48.9	50.8	47.0	41.1	45.8	40.8	42.5	35.8
在庫	-1.4	-1.9	0.1	0.5	0.0	1.7	-0.4	-0.8	-0.9
資金繰り	-1.5	-2.6	-1.8	-1.4	-3.3	0.2	-0.6	-0.1	0.7
従業員残業時間	6.7	6.9	5.9	6.1	5.9	6.9	6.3	5.7	5.4
従業員人手	-12.5	-13.5	-12.2	-14.0	-11.9	-13.0	-10.2	-14.1	-14.1
設備状況	-3.8	-2.9	-2.8	-3.6	-3.2	-3.0	-1.4	-2.1	-2.2

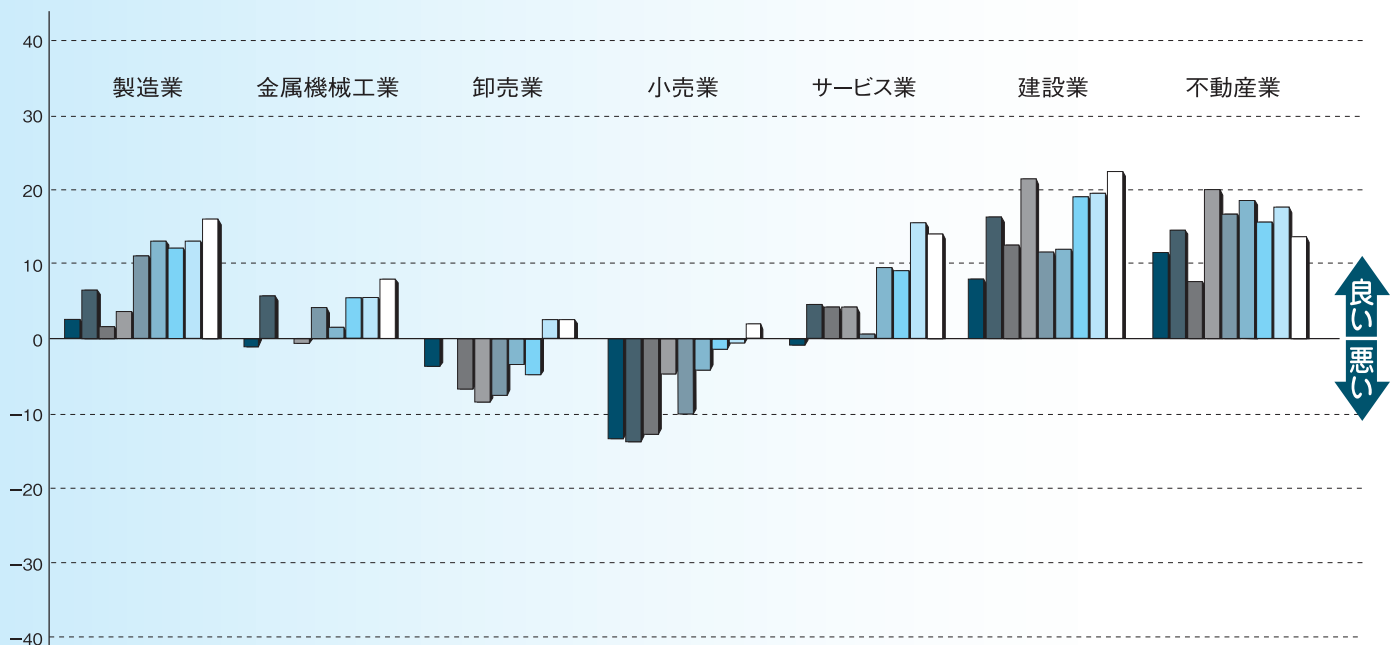
全体業況判断DI



地区別業況判断DI



業種別業況判断DI



業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比2.4ポイント増のわずかな改善～

2024年10月～12月期、全業種の業況判断(DI)は11.0(前期比2.4ポイント増)とわずかな改善になった。

来期予想の業況判断(12.1)は小幅な改善の見通し。

《業種別》～卸売業、サービス業はともに改善、不動産業はわずかな改善、

製造業は小幅な改善、小売業、建設業は概ね横ばい、金属機械工業は横ばい～

業種別にみると、「卸売業」は2.5(前期比7.5ポイント増)、「サービス業」は15.5(同6.5ポイント増)とともに改善。

「不動産業」は17.7(同2.3ポイント増)のわずかな改善。「製造業」は13.0(同1.0ポイント増)と小幅な改善。

「小売業」は▲0.7(同0.6ポイント増)、「建設業」は19.5(同0.5ポイント増)と概ね横ばいした。「金属機械工業」は5.5(変動なし)と横ばいとなった。

～淀川以北地域、淀川以南地域はともにわずかな改善～

地域別にみると、淀川以北地域の業況判断(DI)は9.2(前期比2.0ポイント増)、淀川以南地域は15.4(同1.8ポイント増)とともにわずかな改善。

淀川以北地域の業種別では、サービス業(前期6.3→今期13.5)は改善。製造業(同13.1→同16.0)、不動産業(同10.3→同12.6)、小売業(同▲2.7→同▲0.9)ともにわずかな改善。卸売業(同▲6.5→同▲5.2)は小幅な改善。建設業(同15.6→同15.2)はほぼ横ばい。金属機械工業(同5.8→同4.5)は小幅な悪化となった。

淀川以南地域の業況判断(DI)では、卸売業(前期0.0→今期10.5)と大幅な改善となった。サービス業(同16.2→同23.1)、不動産業(同28.6→同34.5)、建設業(同34.4→同38.2)ともに改善となった。金属機械工業(同7.7→同9.8)とわずかな改善。小売業(同5.9→同0.0)と悪化。製造業(同20.0→同1.9)はかなり大幅な悪化となった。

来期の業況判断予想は、淀川以北地域(10.3)は小幅な改善。淀川以南地域(17.3)は、わずかな改善の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額はわずかな改善、収益はほぼ横ばい～

売上額判断(DI)は15.1(前期比1.6ポイント増)はわずかな改善。収益判断(DI)は9.3ポイント(同0.2ポイント増)とほぼ横ばいとなった。

来期予想の売上額判断(14.7)、収益判断(9.6)とともにほぼ横ばいの見通し。

販売価格・原材料・仕入価格の動き

～販売価格は改善、原材料(仕入)価格はわずかな悪化～

販売価格判断(DI)は30.8(前期比3.1ポイント増)は改善。原材料・仕入価格判断(DI)は42.5(同1.7ポイント増)はわずかな悪化となった。

来期予想の販売価格判断(26.2)は悪化、原材料・仕入価格判断(35.8)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは概ね横ばい、人手は悪化～

資金繰り判断(DI)は▲0.1(前期比0.5ポイント増)と概ね横ばい。人手判断(DI)▲14.1(同3.9ポイント減)は悪化。

人手判断の内訳は、不足とする企業の割合は前期11.2%→今期15.2%と上昇。人手過剰とする企業の割合は同1.0%→同1.1%とほぼ横ばい。適正とした企業の割合は同87.8%→同83.7%と低下となった。

来期予想の資金繰り判断(0.7)は概ね横ばい、人手判断(▲14.1)は横ばいの見通し。

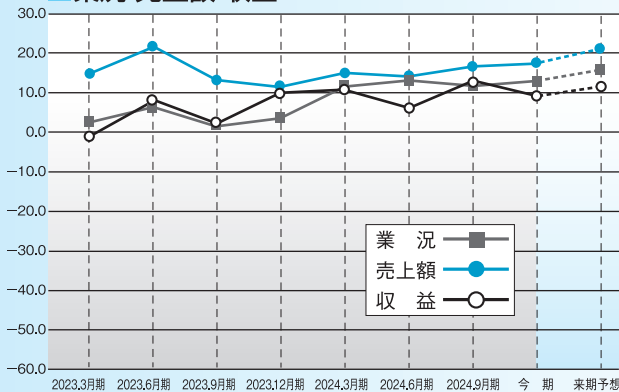
経営上の問題点

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	売上の停滞・減少	40.0%	原材料高	32.0%	人手不足	22.0%	利幅の縮小	17.0%	同業者間の競争の激化	15.5%
金属機械工業	売上の停滞・減少	94.0%	同業者間の競争の激化	29.0%	人手不足	22.5%	原材料高	20.0%	利幅の縮小	9.5%
卸売業	売上の停滞・減少	50.8%	同業者間の競争の激化	30.8%	利幅の縮小	14.2%	人手不足	10.8%	為替レートの変動	8.3%
小売業	売上の停滞・減少	46.0%	同業者間の競争の激化	20.0%	人手不足	12.7%	大型店との競争の激化	12.7%	利幅の縮小	11.3%
サービス業	売上の停滞・減少	86.0%	同業者間の競争の激化	34.0%	人手不足	29.0%	人件費の増加	11.5%	利幅の縮小	8.5%
建設業	売上の停滞・減少	85.0%	人手不足	38.5%	同業者間の競争の激化	27.0%	材料価格の上昇	21.5%	利幅の縮小	9.0%
不動産業	売上の停滞・減少	67.7%	商品物件の不足	36.2%	同業者間の競争の激化	31.5%	商品物件の高騰	30.0%	大手企業との競争の激化	11.5%

当面の重点経営施策

	1位		2位		3位		4位		5位	
製造業	販路を広げる	54.5%	経費を削減する	33.0%	情報力を強化する	17.0%	人材を確保する	12.5%	新製品・技術を開発する	10.5%
金属機械工業	販路を広げる	56.5%	経費を削減する	30.0%	情報力を強化する	19.0%	人材を確保する	14.0%	教育訓練を強化する	10.0%
卸売業	販路を広げる	76.7%	経費を削減する	35.8%	情報力を強化する	14.2%	品揃えを充実する	10.8%	人材を確保する	7.5%
小売業	品揃えを充実する	53.3%	経費を削減する	36.7%	宣伝・広告を強化する	22.7%	売れ筋商品を取り扱う	12.7%	仕入先を開拓・選別する	8.7%
サービス業	販路を広げる	57.0%	経費を削減する	31.0%	人材を確保する	15.5%	宣伝・広告を強化する	13.0%	提携先を見つける	7.5%
建設業	販路を広げる	61.0%	経費を削減する	34.0%	人材を確保する	25.5%	情報力を強化する	18.0%	技術力を高める	13.5%
不動産業	情報力を強化する	48.5%	販路を広げる	44.6%	宣伝・広告を強化する	24.6%	経費を削減する	20.0%	その他	10.0%

業況・売上額・収益



製造業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	2.5	6.5	1.5	3.5	11.0	13.0	12.0	13.0	16.0
売上額	15.0	21.0	13.0	11.5	15.0	14.0	17.0	17.5	21.0
受注残	10.0	10.5	5.0	11.0	12.0	12.0	10.0	14.5	12.5
収益	-1.0	8.0	2.0	10.0	10.5	6.5	13.0	9.5	11.5
販売価格	37.0	37.0	41.5	32.0	35.5	45.0	38.0	37.5	33.5
原材料価格	62.5	60.0	60.0	54.5	46.5	59.5	48.5	49.5	43.0
在庫	0.0	1.5	4.5	2.0	0.0	4.0	2.0	1.5	1.0
資金繰り	3.5	0.0	4.5	1.5	2.0	9.0	3.0	1.0	0.0
従業員残業時間	6.1	5.6	4.6	3.0	5.1	2.5	3.0	4.6	3.0
従業員人手	-15.3	-15.7	-15.2	-14.2	-12.7	-14.2	-8.6	-10.7	-10.2
設備状況	-6.1	-5.6	-4.1	-5.1	-7.6	-4.1	-3.6	-4.6	-3.6

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比1.0ポイント増と小幅な改善～

2024年10月～12月期、製造業の業況判断(DI)は13.0(前期比1.0ポイント増)と小幅な改善。最多納入先別にみる業況判断(DI)では、「中小メーカー・仲間業者向け」(前期▲3.5→今期5.3)は改善となった。「大メーカー向け」(同48.9→同44.7)、「小売・最終需要家向け」(同11.8→同5.9)ともに悪化。「問屋・商社向け」(同16.0→同▲9.1)とかなり大幅な悪化となった。

来期予想の業況判断(16.0)は改善の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	22	47	114	17
良い・悪い	26	-2	21	6	1
DI	13.0	-9.1	44.7	5.3	5.9

売上額・収益・受注残の動き

～売上額は概ね横ばい、受注残は改善、収益は悪化～

売上額判断(DI)は17.5(前期比0.5ポイント増)と概ね横ばい。受注残判断(DI)は、14.5(同4.5ポイント増)は改善。収益判断(DI)は、9.5(同3.5ポイント減)は悪化。

来期予想は、売上額判断(21.0)は改善。受注残判断(12.5)はわずかな悪化。収益判断(11.5)はわずかな改善の見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は概ね横ばい、原材料価格は小幅な悪化～

販売価格判断(DI)は37.5(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。原材料価格判断(DI)は49.5(同1.0ポイント増)と小幅な悪化となった。

来期予想の販売価格判断(33.5)は悪化。原材料価格判断(43.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

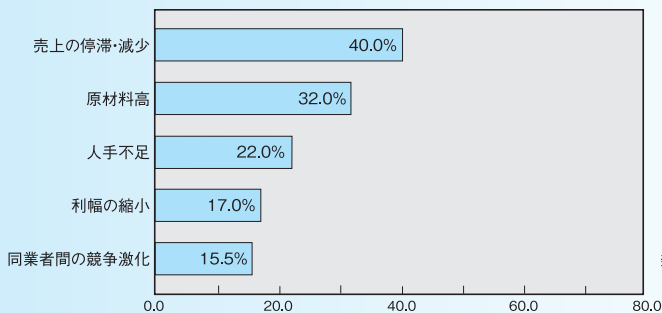
～資金繰りはわずかな悪化、人手については悪化～

資金繰り判断(DI)は1.0(前期比2.0ポイント減)とわずかな悪化。人手判断(DI)は▲10.7(同2.1ポイント減)はわずかな悪化となった。

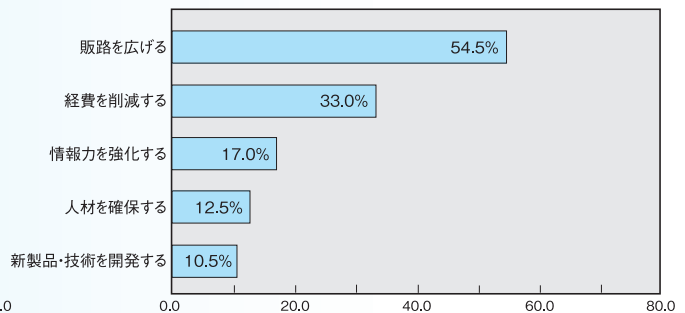
人手判断の内訳は、不足とした企業は前期9.6%→今期11.7%はわずかな上昇、適正とした企業の割合は同89.4%→同87.3%はわずかに低下した。人手過剰とした企業の割合は同1.0%→同1.0%と横ばい。

来期予想の資金繰り判断(0.0)小幅な悪化、人手判断(▲10.2)概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

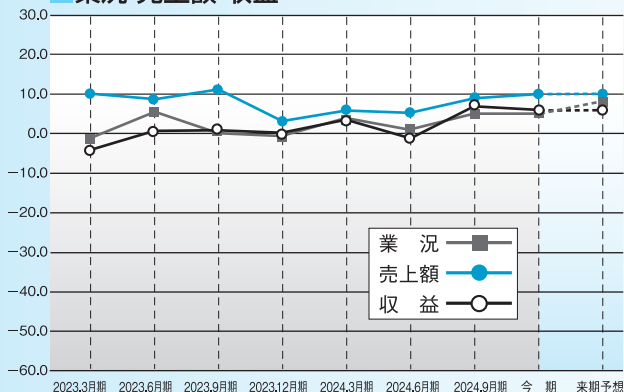


企業のコメント



- 業況順調。新プロジェクトの研究開発が来年から開始予定。外注先に外国企業含め模索中。(フレキシブルホース)
- 材料費高等しているが、しっかり価格転嫁できており利益増加傾向。(鉄骨階段)
- 増収増益見込。今季意向も同様の流れであるが、為替レートにより利益率が下がる。(靴・袋・高周波製品)
- 業況は大きな変動なし。今後も原材料価格の高騰は注視必要。(魔法瓶製品)
- 人手不足により、配送などの人員が不足。原材料高騰分も価格転嫁できておらず収益減少傾向。(食パン)
- 受注金額が低くなってきており、売上、利益共に減少傾向。(ラベラー機械)

業況・売上額・収益



金属機械工業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	-1.0	5.5	0.0	-0.5	4.0	1.5	5.5	5.5	8.0
売上額	10.0	9.5	11.0	3.0	6.0	5.5	9.0	10.0	10.0
受注残	9.5	7.5	11.0	4.5	7.5	2.5	9.5	7.5	6.5
収益	-4.0	0.5	1.0	0.0	4.0	-1.5	7.5	6.5	6.5
販売価格	37.5	29.5	29.5	30.0	26.0	27.5	22.5	23.5	20.5
原材料価格	60.0	50.5	55.5	47.0	39.0	45.5	36.5	39.0	32.0
在庫	1.5	2.5	1.5	1.0	1.0	1.0	0.5	1.0	1.0
資金繰り	4.5	0.5	-3.0	0.0	-2.5	4.0	4.5	3.5	4.0
従業員残業時間	4.0	5.5	5.5	4.0	0.5	0.0	3.5	2.0	4.5
従業員人手	-16.5	-13.5	-10.5	-14.5	-12.0	-12.0	-10.0	-17.5	-17.0
設備状況	-5.0	-3.5	-2.5	-3.0	-2.0	-5.5	-3.5	-3.5	-3.5

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比変動なしと横ばい～

2024年10月～12月期、金属機械工業の業況判断(DI)は5.5(前期比変動なし)と横ばい。
最多納入先別の業況判断(DI)は、「大メーカー」(前期21.0→今期34.4)と大幅な改善。
「問屋・商社」(同0.0→同0.0)は横ばいとなった。「中小メーカー・仲間業者」(同▲2.5→同▲8.0)は悪化。
「小売・最終需要家向け」(同0.0→同33.3)はかなり大幅な悪化となった。
来期予想の業況判断(8.0)はわずかな改善の見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売・最終需要家
全体	200	11	61	125	3
良い～悪い	11	0	21	-10	0
DI	5.5	0.0	34.4	-8.0	0.0

売上額・収益・受注の動き

～売上額は小幅な改善、受注残はわずかな悪化、収益は小幅な悪化～

売上額判断(DI)は10.0(前期比1.0ポイント増)と小幅な改善、受注残判断(DI)は7.5(同2.0ポイント減)はわずかな悪化、
収益判断(DI)は6.5(同1.0ポイント減)と小幅な悪化となった。
来期予想の売上額判断(10.0)は横ばい、受注残判断(6.5)は小幅な悪化。収益判断(6.5)は横ばいの見通し。

販売価格・原材料価格の動き

～販売価格は小幅な改善、原材料価格はわずかな悪化～

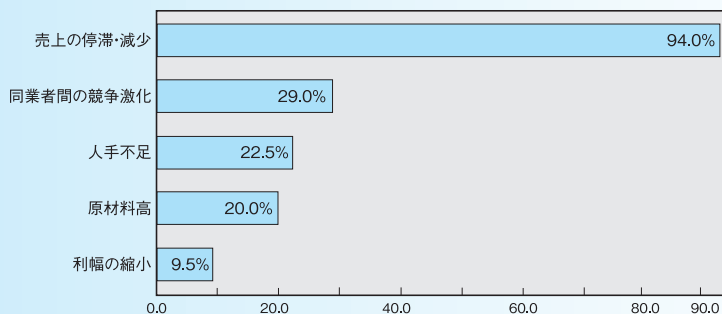
販売価格判断(DI)は23.5(前期比1.0ポイント増)は小幅な改善。原材料価格判断(DI)39.0(同2.5ポイント増)はわずかな悪化となった。
来期予想の販売価格判断(20.5)は悪化、原材料価格判断(32.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

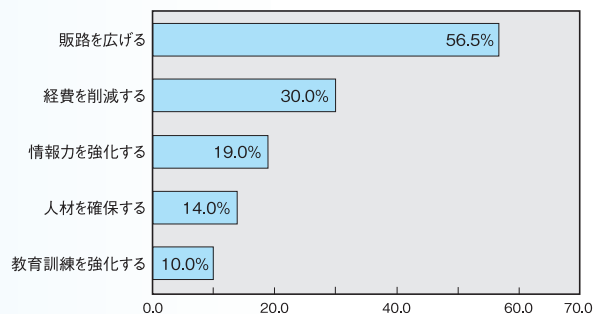
～資金繰りは小幅な改善、人手については悪化～

資金繰り判断(DI)は3.5(前期比1.0ポイント減)と小幅な悪化。
人手判断(DI)は▲17.5(同7.5ポイント減)と悪化。人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期88.0%→今期81.5%と低下、
人手過剰とした企業の割合は同1.0%→同0.5%と概ね横ばい、不足とした企業の割合は同11.0%→同18.0%と上昇した。
来期予想の資金繰り判断(4.0)、人手判断(▲17.0)ともに概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



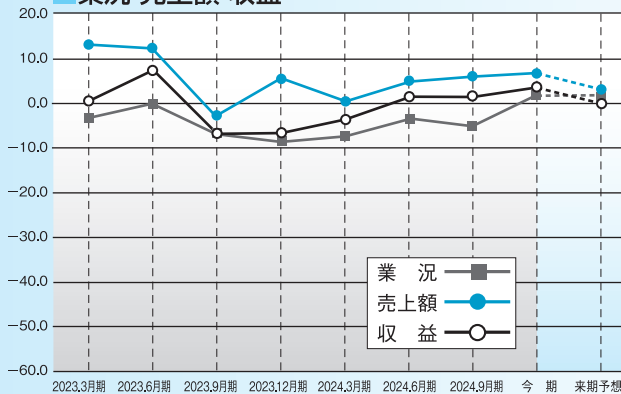
当面の重点経営施策



企業のコメント

- ・国内外共に受注増加傾向。顧客に対し安定してメンテナンスを行える枠組み作りを提案し始めている。(金網)
- ・工場は基本フル稼働。人力的に不足するため受注量をセーブしている。(機械用歯車)
- ・業況はやや上向き傾向にあり。(土木工業用切削部品)
- ・昨年より受注上向きであるが資金繰り厳しい状況は続く。(金型製造)
- ・業況厳しく売上減少も続く。後継者も不在で早期に事業継続方法を見つけないといけない。(各種金属加工)
- ・受注大幅減少が見込まれており、先行きが見通せない。(金属加工)

業況・売上額・収益



卸売業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	-3.4	0.0	-6.7	-8.3	-7.5	-3.3	-5.0	2.5	2.5
売上額	13.6	12.5	-2.5	5.8	0.8	5.0	5.8	6.7	3.3
収益	0.8	7.5	-6.7	-6.7	-3.3	1.7	1.7	3.3	0.0
販売価格	34.7	20.0	30.0	34.2	30.0	29.2	25.8	34.2	27.5
仕入価格	49.2	38.3	45.0	45.0	36.7	41.7	40.8	40.0	35.0
在庫	5.9	1.7	2.5	4.2	6.7	5.0	0.8	5.0	5.8
資金繰り	-9.3	-5.0	-2.5	-17.0	-4.2	-6.7	-3.3	-7.5	-1.7
従業員残業時間	-1.7	1.7	1.7	4.2	7.5	8.3	5.8	4.2	2.5
従業員人手	-5.9	-8.3	-2.5	-4.2	-8.3	-4.2	-6.7	-3.3	-2.5
設備状況	0.8	-0.8	0.0	-2.5	-2.5	-0.8	0.8	1.7	-0.8

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比7.5ポイント増と改善～

2024年10月～12月期、卸売業の業況判断(DI)は2.5(前期比7.5ポイント増)と改善。

最多納入先別の業況判断(DI)は、「中小メーカー・仲間業者」(前期▲9.4→今期9.8)はかなり大幅な改善、「小売業者」(同▲7.7→同▲3.7)は改善、「問屋・商社」(同0.0→同▲3.8)、「大メーカー」(同7.1→同0.0)ともに悪化となった。

来期予想の業況判断(2.5)は横ばいの見通し。

◎最多納入先別の業況について(当期)

	合計	問屋・商社	大メーカー	中小メーカー・仲間業者	小売業者
全体	120	26	16	51	27
良い～悪い	3	-1	0	5	-1
DI	2.5	-3.8	0.0	9.8	-3.7

売上額・収益の動き

～売上額は概ね横ばい、収益はわずかな改善～

売上額判断(DI)は6.7(前期比0.9ポイント増)は概ね横ばい、収益判断(DI)は3.3(同1.6ポイント増)はわずかな改善となった。

来期予想の売上額判断(3.3)、収益判断(0.0)ともに悪化の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は改善、仕入価格は概ね横ばい～

販売価格判断(DI)は34.2(前期比8.4ポイント増)は改善。仕入価格判断(DI)は40.0(同0.8ポイント減)は概ね横ばいとなった。

来期予想の販売価格判断(27.5)は悪化、仕入価格判断(35.0)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

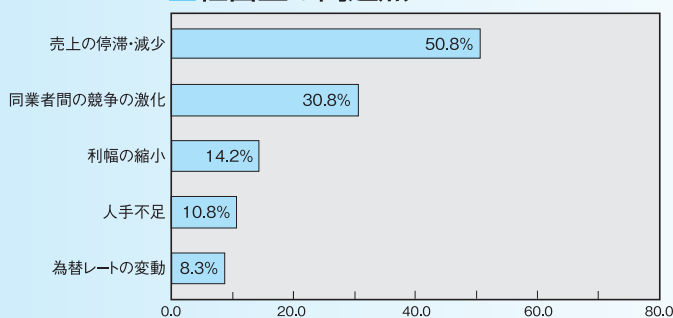
～資金繰りは悪化、人手については改善～

資金繰り判断(DI)は▲7.5(前期比4.2ポイント減)と悪化。人手判断(DI)は▲3.3(同3.4ポイント増)の改善となった。

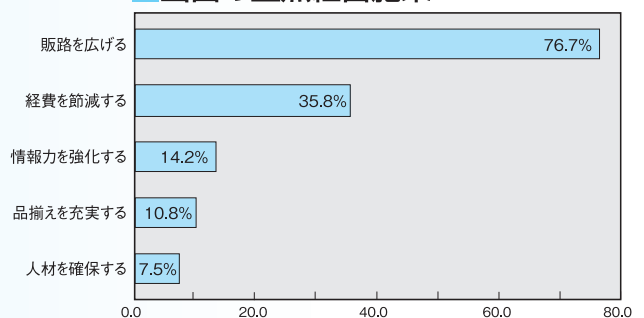
人手判断の内訳は、適正とした企業の割合は前期93.3%→今期93.3%と横ばい、人手過剰とした企業の割合は同0.0%→同1.7%とわずかな上昇。不足とした企業の割合は同6.7%→同5.0%とわずかな低下となった。

来期予想の資金繰り判断(▲1.7)は改善、人手判断(▲2.5)は概ね横ばいの見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

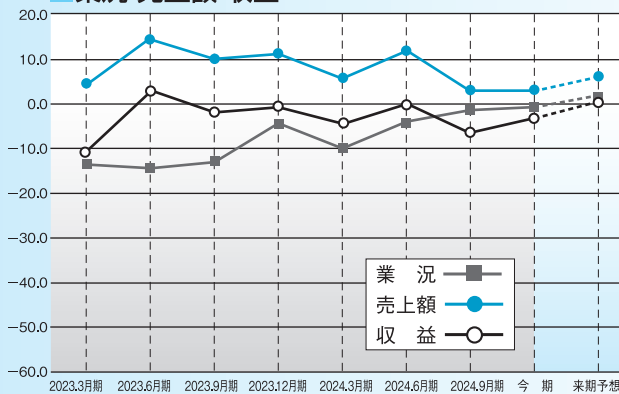


企業のコメント



- ・ホテル新設などの大型案件に同社の商品が利用されることが決まり、売上は増加傾向にある。(塗料卸)
- ・仕入れ高騰により利益大きく圧迫していたが価格転嫁に注力し、販路開拓にも力入れ売上回復傾向。(工具)
- ・粗利の減少否めないが、今後も構想継続し粗利率の改善を目指す。(食品容器卸売)
- ・仕事量に波があるが平均すると横ばい。(合成樹脂製品、金属製品)
- ・店舗販売はコロナ禍で落ち込んでその後の回復は鈍い。1店舗閉鎖予定。(革製品)
- ・廃業に向けて着々と手続きを進めている。(服、雑貨)

業況・売上額・収益



小売業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今 期	来期予想
業 況	-13.6	-14.0	12.7	-4.7	-10.0	-4.0	-1.3	-0.7	2.0
売 上 額	4.7	14.0	10.0	11.3	5.3	12.0	2.7	2.7	6.0
収 益	-10.8	2.7	-2.0	-0.7	-4.7	0.0	-6.7	-3.3	0.7
販売価格	34.5	29.3	32.7	28.0	27.3	28.0	28.7	30.0	28.0
仕入価格	54.1	43.3	47.3	46.7	38.0	45.3	44.0	44.0	36.7
在 庫	1.4	2.0	6.0	6.7	2.7	5.3	0.0	3.3	2.7
資金繰り	-9.5	-10.0	-8.0	-12.0	-9.3	-14.0	-11.3	-3.3	-3.4
従業員残業時間	2.0	3.3	0.0	2.7	1.3	2.0	4.0	0.0	0.0
従業員人手	-5.5	-11.3	-9.3	-12.0	-8.7	-13.3	-6.7	-11.3	-12.7
設備状況	-2.0	-3.3	-3.3	-3.3	-2.0	-2.0	0.0	-0.7	-0.7

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比0.6ポイント増の概ね横ばい～

2024年10月～12月期、小売業の業況判断(DI)は▲0.7(前期比0.6ポイント増)と概ね横ばい。店舗立地地域別の業況判断(DI)は、「住宅地隣接商店街」(前期▲1.8→今期1.6)と改善。「駅周辺商店街」(同▲10.9→同▲11.3)はほぼ横ばい。「その他」(同12.8→同11.1)はわずかな悪化となった。来期予想の業況判断(2.0)はわずかな改善の見通し。

◎店の立地地域別業況について(当期)

	合 計	駅周辺商店街	住宅地隣接商店街	そ の 他
全 体	150	53	61	36
良い～悪い	-1	-6	1	4
D I	-0.7	-11.3	1.6	11.1

売上額・収益の動き

～売上額は横ばい、収益は改善した～

売上額判断(DI)は2.7(前期比変動なし)と横ばい。収益判断(DI)は▲3.3(同3.4ポイント増)と改善した。来期予想の売上額判断(6.0)、収益判断(0.7)とともに改善の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は小幅な改善、仕入価格は横ばい～

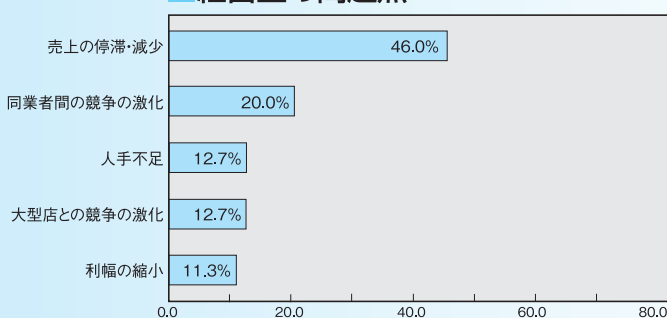
販売価格判断(DI)は30.0(前期比1.3ポイント増)と小幅な改善。仕入価格判断(DI)は44.0(同変動なし)と横ばいとなった。来期予想の販売価格判断(28.0)とわずかな悪化、仕入価格判断(36.7)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

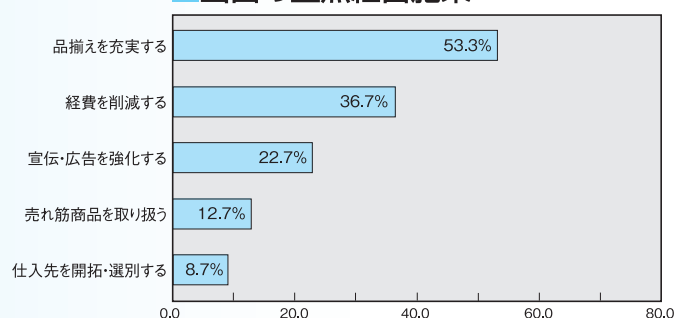
～資金繰りは改善、人手については悪化～

資金繰り判断(DI)は▲3.3(前期比8.0ポイント増)と改善。人手判断(DI)は▲11.3(同4.6ポイント減)と悪化。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期2.0%→今期1.3%と概ね横ばい、不足とした企業の割合は同8.7%→同12.7%と上昇、適正とした企業は同89.3%→同86.0%と低下となった。来期予想の資金繰り判断(▲3.4)はほぼ横ばい、人手判断(▲12.7)は小幅な悪化の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

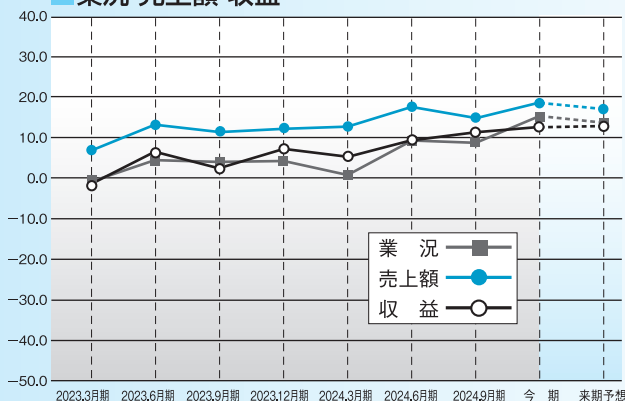


企業のコメント



- ・ショールームによる販売好調。今後も引き続き受注は安定見込。(中古車販売)
- ・販売状況良好。7年リース後中古車販売のビジネスモデルが創業8年目の現在確立したもの。(中古車販売)
- ・小、中学校に講師として出張に行くことが多い。インフルエンザの患者も増え、コロナ禍が落ち着くも客足一定数ある。(薬)
- ・食材仕入価格高騰に伴い、販売価格転嫁することで利益率改善を図っている。(洋食)
- ・若年層からの購入需要が物価高の影響により減少している。(スポーツ用自転車)
- ・小規模で自転車屋を経営。地元住民の顧客のみであり、事業縮小傾向にあり。後継者も不在。(自転車)

業況・売上額・収益



サービス業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	-1.0	4.5	4.0	4.0	0.5	9.5	9.0	15.5	14.0
売上額	6.1	13.5	11.0	12.0	12.5	17.5	15.0	18.5	17.5
収益	-1.5	6.0	2.5	7.0	5.5	9.5	11.5	12.5	13.5
料金価格	17.2	20.0	21.0	17.5	21.5	22.0	18.0	22.5	19.5
材料価格	36.9	36.5	34.5	30.0	31.5	28.5	26.0	25.5	22.5
資金繰り	-3.5	-4.5	-2.0	-2.5	-5.5	-1.5	-2.0	-3.0	-2.5
従業員残業時間	5.1	4.5	7.5	6.5	5.0	6.0	4.5	4.0	3.5
従業員人手	-15.2	-16.0	-16.0	-17.0	-10.5	-14.0	-8.0	-16.0	-17.5
設備状況	-4.5	-1.5	-5.0	-4.0	-2.5	-3.5	-1.5	-1.5	-1.5

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比6.5ポイント増の改善～

2024年10月～12月期、サービス業の業況判断(DI)は15.5(前期比6.5ポイント増)と改善。

来期予想の業況判断(14.0)はわずかな悪化の見通し。

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益は小幅な改善～

売上額判断(DI)は18.5(前期比3.5ポイント増)と改善、収益判断(DI)は12.5(同1.0ポイント増)と小幅な改善。

来期予想の売上額判断(17.5)と小幅な悪化、収益判断(13.5)は小幅な改善の見通し。

料金価格・材料価格の動き

～料金価格は改善、材料価格は概ね横ばい～

料金価格判断(DI)は22.5(前期比4.5ポイント増)と改善。材料価格判断(DI)は25.5(同0.5ポイント減)と概ね横ばい。

来期予想の料金価格判断(19.5)は悪化、材料価格判断(22.5)と改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りは小幅な悪化、人手については悪化～

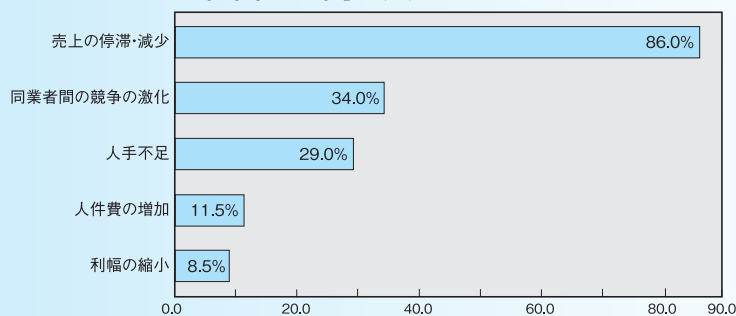
資金繰り判断(DI)は▲3.0(前期比1.0ポイント減)は小幅な悪化。人手判断(DI)は▲16.0(同8.0ポイント減)と悪化。

人手判断の内訳は、人手不足とした企業の割合は前期9.5%→今期18.0%と上昇。

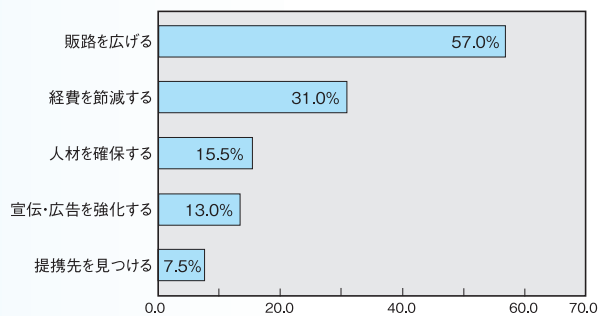
人手過剰とした企業の割合は同1.5%→同2.0%と概ね横ばい。適正とした企業の割合は同89.0%→同80.0%と低下。

来期予想の資金繰り判断(▲2.5)は概ね横ばい、人手判断(▲17.5)はわずかな悪化の見通し。

経営上の問題点



当面の重点経営施策

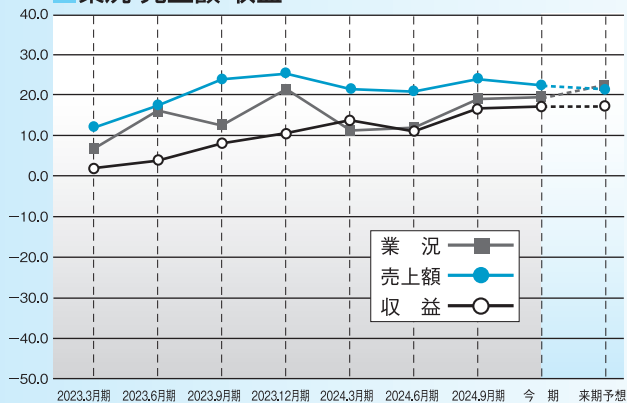


企業のコメント



- ・会計ソフト販売、適正な人数で業務遂行できたため、余分な経費がかからず、利益増大。(会計ソフト)
- ・主要取引先がドル建てでの入金であり、円安の恩恵を受け増収・増益にて今期着地見通し。(医療向け翻訳)
- ・利用者数は横ばい。人材確保に注力。(介護サービス)
- ・昨年末から値上げにより売上増加。利益は前年より増加するがコロナ禍以前と同程度。(居酒屋)
- ・デイサービスを営むが、ヘルパー不足と同業者が多いことが悩み。(デイサービス)
- ・材料費の高騰の影響続き資金繰りも厳しい。(クリーニング)

業況・売上額・収益



建設業 DI値の推移

	2023.3月期	2023.6月期	2023.9月期	2023.12月期	2024.3月期	2024.6月期	2024.9月期	今期	来期予想
業況	7.5	16.0	12.5	21.5	11.5	12.0	19.0	19.5	22.5
売上額	12.1	17.5	24.0	25.5	21.5	20.5	24.0	22.5	21.0
受注残	13.6	7.0	16.0	22.0	18.5	14.0	21.5	18.5	16.5
施工高	17.1	17.0	23.0	29.0	25.0	24.0	23.5	20.5	21.0
収益	2.0	4.0	8.0	10.5	13.5	11.0	17.0	17.5	17.5
請負価格	30.7	26.0	32.0	34.0	30.5	31.5	30.0	29.5	23.5
原材料・仕入価格	68.3	53.0	58.0	53.0	48.0	50.0	48.0	50.0	41.5
在庫	-2.0	-3.5	-0.5	2.5	0.5	0.5	0.0	-1.0	-0.5
資金繰り	-2.5	-4.0	-2.0	1.5	-2.5	3.0	2.5	5.0	7.0
従業員残業時間	6.0	5.5	5.0	6.5	8.0	10.0	9.0	7.5	7.0
従業員人手	-18.6	-19.0	-22.0	-26.0	-23.5	-22.5	-23.0	-27.0	-27.0
設備状況	-3.5	-2.0	-1.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.5	-2.0	-2.0

◎最多請負先別の業況について(当期)

	合計	官公庁	大企業	中小企業	個人
全体	200	39	65	84	12
良い～悪い	39	9	21	9	0
DI	19.5	23.1	32.3	10.7	0.0

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比0.5ポイント増の概ね横ばい～

2024年10月～12月期、建設業の業況判断(DI)は19.5(前期比0.5ポイント増)と概ね横ばい。

請負先別の業況(DI)は、「中小業向け」(前期2.4→今期10.7)は改善、「大企業向け」(同29.9→同32.3)はわずかな改善、「官公庁向け」(同37.8→同23.1)は大幅な悪化、「個人向け」(同18.2→同0.0)はかなり大幅な悪化となった。
来期予想の業況判断(22.5)は改善の見通し。

売上額・収益・受注残の動き

～売上額はわずかな悪化、受注残は悪化、収益は概ね横ばい～

売上額判断(DI)は22.5(前期比1.5ポイント減)とわずかな悪化。受注残判断(DI)は18.5(前期比3.0ポイント減)と悪化。

収益判断(DI)は17.5(同0.5ポイント増)と概ね横ばいとなった。

来期予想の売上額判断(21.0)、受注残判断(16.5)ともにわずかな悪化、収益判断(17.5)横ばいの見通し。

請負価格・原材料価格の動き

～請負価格は概ね横ばい、原材料価格はわずかな悪化～

請負価格判断(DI)は29.5(前期比0.5ポイント減)と概ね横ばい。原材料価格判断(DI)は50.0(同2.0ポイント増)とわずかな悪化となった。

来期予想の請負価格判断(23.5)は悪化、原材料価格判断(41.5)は改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

～資金繰りはわずかな改善、人手については悪化～

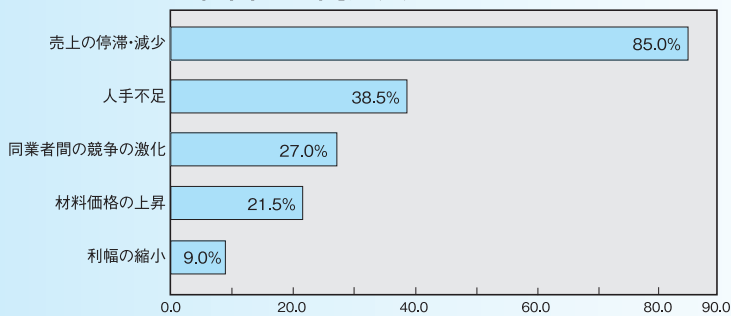
資金繰り判断(DI)は5.0(前期比2.5ポイント増)とわずかな改善。

人手判断(DI)は▲27.0(前期比4.0ポイント減)と悪化。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.5%→今期0.5%と横ばい。

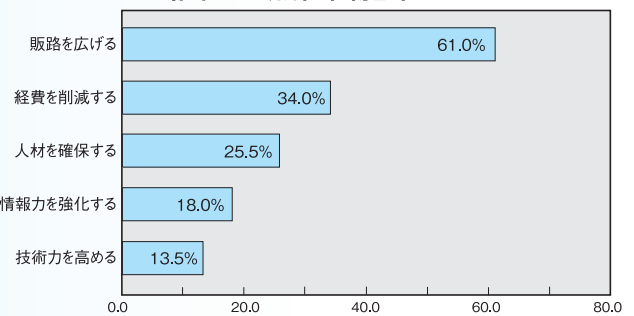
適正とした企業の割合は同76.0%→同72.0%と低下。また、人手不足とした企業の割合は同23.5%→同27.5%は上昇となった。

来期予想の資金繰り判断(7.0)とわずかな改善、人手判断(▲27.0)は横ばいの見通し。

経営上の問題点



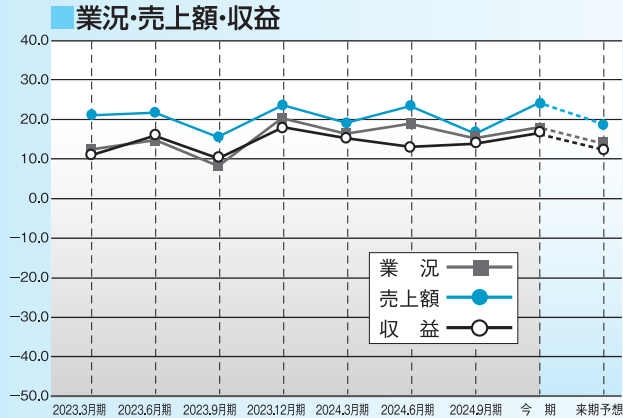
当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・前期より売上利益ともに増加しており、大型受注もコンスタントに入っている。(アンカー工事)
- ・大きな受注増加しており先行支払い増加しているが純資産多く問題ない。(電気工事)
- ・材料高騰しているが、価格転嫁できており利益増加傾向。(建築)
- ・前期最終赤字であったが、紹介案件増加により改善しつつある。(建設工事)
- ・値上げ要請するもなかなか要望が通らない。値上げ交渉継続し、工期徹底などで利益確保したい。(型枠工事)
- ・人手不足が悩み。資金繰りも苦しい時期があり、資金調達が必要。(土木工事)



■ 不動産業 DI値の推移

	2023.3	2023.6	2023.9	2023.12	2024.3	2024.6	2024.9	今期	来期予想
業況	11.6	14.6	7.7	20.0	16.9	18.5	15.4	17.7	13.8
売上額	20.5	20.8	15.4	23.8	19.2	23.1	16.2	24.6	18.5
収益	10.7	15.4	10.0	17.7	15.4	13.1	14.6	16.2	12.3
販売価格	46.7	38.5	42.3	42.3	35.4	36.9	31.5	43.8	34.6
仕入価格	53.3	57.7	53.1	54.6	47.7	49.2	43.1	52.3	41.5
在庫	-18.2	-19.2	-16.9	-16.2	-11.5	-6.2	-7.7	-16.9	-17.7
資金繰り	2.5	4.6	-1.5	1.5	-2.3	1.5	-1.5	0.0	-1.5
従業員残業時間	4.1	4.6	0.8	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3
従業員人手	-2.4	-5.4	-1.5	-1.5	-2.3	-4.6	-3.8	-4.6	-3.1

業況について

2024年10月～12月期 ～業況は前期比2.3ポイント増のわずかな改善～

2024年10月～12月期、不動産業の業況判断(DI)は17.7(前期比2.3ポイント増)とわずかな改善。業種内容別業況では、「仲介管理」(前期16.7→今期29.2)は大幅な改善、「賃貸」(同0.0→同5.6)は改善、「建売」(同17.8→同17.0)は概ね横ばい。
来期予想の業況判断(13.8)は悪化の見通し。

◎業種内容別業況について(当期)

	全 体	賃 貸	建 売	仲介管理
全 体	130	18	88	24
良い～悪い	23	1	15	7
D I	17.7	5.6	17.0	29.2

売上額・収益の動き

～売上額は改善、収益はわずかな改善～

売上額判断(DI)は24.6(前期比8.4ポイント増)と改善、収益判断(DI)は16.2(同1.6ポイント増)とわずかな改善となった。
来期予想の売上額判断(18.5)、収益判断(12.3)ともに悪化の見通し。

販売価格・仕入価格の動き

～販売価格は大幅な改善、仕入価格は悪化～

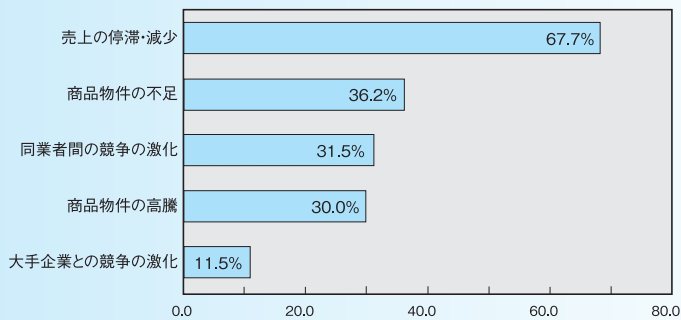
販売価格判断(DI)は43.8(前期比12.3ポイント増)と大幅な改善、仕入価格判断(DI)は52.3(同9.2ポイント増)と悪化となった。
来期予想の販売価格判断(34.6)は悪化、仕入価格判断(41.5)は大幅な改善の見通し。

資金繰り・雇用面の動き

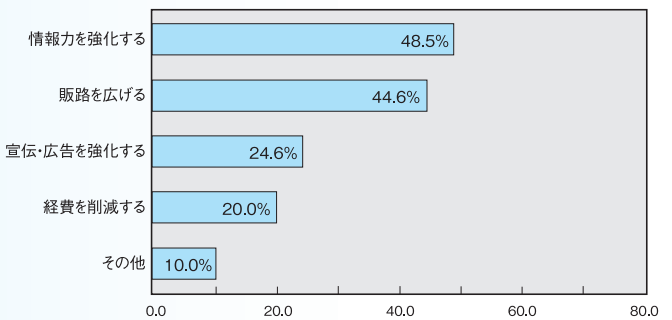
～資金繰りはわずかな改善、人手については概ね横ばい～

資金繰り判断(DI)は0.0(前期比1.5ポイント増)とわずかな改善。
人手判断(DI)は▲4.6(前期比0.8ポイント減)と概ね横ばい。人手判断の内訳は、人手過剰とした企業の割合は前期0.8%→今期0.8%と横ばい。適正とした企業の割合は同94.6%→同93.8%と概ね横ばい。人手不足とした企業の割合は同4.6%→同5.4%と概ね横ばいとなった。
来期予想の資金繰り判断は(▲1.5)はわずかな悪化、人手判断は(▲3.1)はわずかな改善の見通し。

■ 経営上の問題点



■ 当面の重点経営施策



企業のコメント



- ・ 今期増収増益。販売価格引上げ、在庫回転数が早くなったことで利益上昇効果に繋がった。(不動産)
- ・ 仕入状況も良く、売上前期比31%増加。建築費の増加に伴い販売価格も増加している。(不動産販売)
- ・ 売上・利益は前期同程度で推移。仕入れ価格上がっているが販売価格に転嫁できている。(不動産)
- ・ 建築資金高騰の動きに変化なく、事業計画が立てにくい状況に変わりはない。(不動産)
- ・ 販売価格高騰しており、エンドユーザーがローン通らない。(不動産売買、仲介)
- ・ 不動産売買の動き悪く、業績悪化続いているため廃業予定。法人所有の資産売却後閉鎖予定。(不動産売買)

今回の北おおさか信金景気動向特別調査は「2025年(来年度)の見通しについて」をテーマにアンケート調査を行いました。調査期間は2024年12月2日～6日。調査対象は北大阪を中心とする地元企業1,200社で、有効回答は1,200社(有効回答率100.0%)。

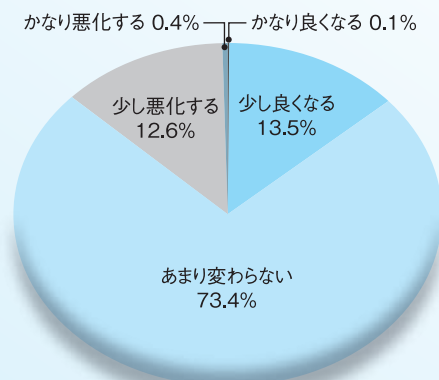


来年度(2025年)の日本の景気見通しについて、どう予想されますか。

～「あまり変わらない」73.4%、
「少し良くなる」13.5%、
「少し悪化する」12.6%～

「来年度(2025年)の日本の景気見通し」について聞いたところ、「あまり変わらない」と回答した企業割合は全体で73.4%と7割を超えた(業種別では、小売業77.3%と高く、卸売業67.5%と低い)。
「少し良くなる」と回答した企業割合は全体で13.5%(業種別では、建設業18.5%と高く、小売業8.7%と低い)。
「少し悪化する」と回答した企業割合は全体で12.6%(業種別では、製造業16.5%、建設業7.5%と低い)となった。

来年度(2025年)の日本の景気見通しについて、どう予想されますか



業種 × 来年度(2025年)の日本の景気見通しについて、どう予想されますか。

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	0.1%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
かなり良くなる	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
少し良くなる	13.5%	9.0%	18.3%	8.7%	13.6%	18.5%	13.8%
あまり変わらない	70.0%	75.5%	67.5%	77.3%	74.9%	73.0%	74.6%
少し悪化する	16.5%	15.0%	14.2%	13.3%	11.6%	7.5%	10.0%
かなり悪化する	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%	1.5%

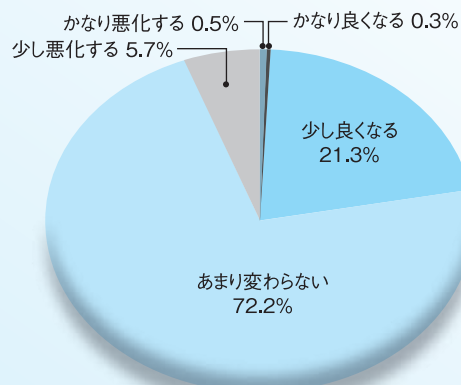


来年度の貴社の業況については、どう予測されますか。

～「あまり変わらない」72.2%、
「少し良くなる」21.3%、
「少し悪化する」5.7%～

「来年度の貴社の業況」について聞いたところ、「あまり変わらない」と回答した企業割合は72.2%と7割を占めた(業種別では、サービス業78.8%と高く、製造業64.8%と低い)。
「少し良くなる」と回答した企業割合は21.3%となった(業種別では、建設業27.5%と高く、小売業14.0%と低い)。
「少し悪化する」と回答した企業割合は、5.7%となった(業種別では、製造業8.5%と高く、サービス業 2.5%と低い)。

来年度の貴社の業況については、どう予測されますか



業種 × 来年度の貴社の業況については、どう予測されますか。

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	0.3%	0.5%	0.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.0%
かなり良くなる	0.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.0%
少し良くなる	26.1%	19.5%	22.5%	14.0%	18.2%	27.5%	19.2%
あまり変わらない	64.8%	72.5%	71.7%	77.3%	78.8%	67.5%	74.6%
少し悪化する	8.5%	7.0%	5.8%	7.3%	2.5%	4.0%	4.6%
かなり悪化する	0.0%	1.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.5%	1.5%

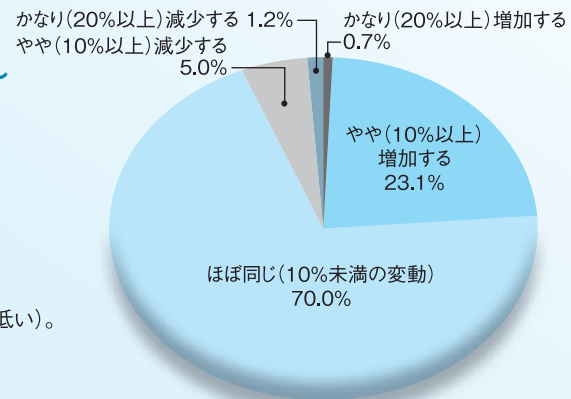


来年度の貴社の売上高について、どう予測されますか。

～「ほぼ同じ(10%未満の変動)」70.0%、
「やや(10%以上)増加する」23.1%、
「やや(10%以上)減少する」5.0%～

「来年度の貴社の売上高」について聞いたところ、
「ほぼ同じ(10%未満の変動)」と回答した企業割合は70.0%となった
(業種別では、小売77.3%と高く、製造業65.0%と低い)。
「やや(10%以上)増加する」と回答した企業割合は23.1%となった
(業種別では、建設業が28.5%と高く、小売業が16.0%と低い)。
「やや(10%以上)減少する」と回答した企業割合は5.0%となった
(業種別では、製造業、金属機械工業が8.0%と高く、不動産業が2.3%と低い)。

来年度の貴社の売上高についてどう予測されますか



業種 × 来年度の貴社の売上高について、どう予測されますか。

70	60	50	40	30	20	10	0	合 計	回 答	業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
								0.7%	かなり(20%以上)増加する		0.5%	0.5%	0.8%	0.7%	0.0%	1.0%	1.5%
								23.1%	やや(10%以上)増加する		26.0%	19.5%	26.7%	16.0%	21.0%	28.5%	23.8%
								70.0%	ほぼ同じ(10%未満の変動)		65.0%	70.0%	68.3%	77.3%	75.0%	65.5%	70.0%
								5.0%	やや(10%以上)減少する		8.0%	8.0%	4.2%	6.0%	3.0%	2.5%	2.3%
								1.2%	かなり(20%以上)減少する		0.5%	2.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.5%	2.3%

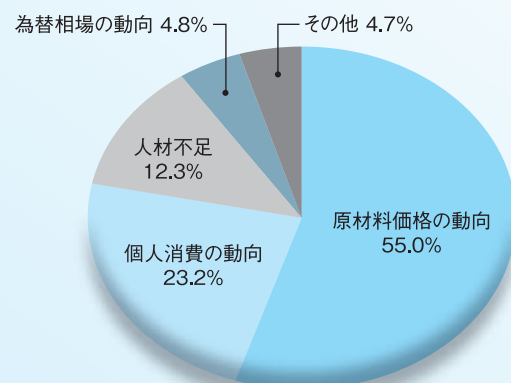


来年度の自社業績に最も影響を及ぼすと思われる要因は何ですか。

～「原材料価格の動向」55.0%、
「個人消費の動向」23.2%、
「人材不足」、12.3%～

「来年度の自社業績に最も影響を及ぼすと思われる要因」について聞いたところ、「原材料価格の動向」と回答した企業割合は55.0%と最も多かった
(業種別では、金属機械工業が78.0%と高く、次いで製造業70.5%)。
「個人消費の動向」と回答した企業割合は23.2%となった
(業種別では、小売業が52.0%と高く、次いで不動産業が47.7%)。
「人材不足」と回答した企業割合は12.3%となった
(業種別では、建設業が25.5%と高く、次いでサービス業が22.6%)。

来年度の自社業績に最も影響を及ぼすと思われる要因は何ですか



業種 × 来年度の自社業績に最も影響を及ぼすと思われる要因は何ですか。

70	60	50	40	30	20	10	0	合 計	回 答	業 種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
								55.0%	原材料価格の動向		70.5%	78.0%	51.7%	37.3%	30.7%	64.5%	42.3%
								23.2%	個人消費の動向		10.5%	4.5%	20.8%	52.0%	35.7%	6.0%	47.7%
								12.3%	人材不足		6.5%	10.5%	4.2%	4.7%	22.6%	25.5%	4.6%
								4.8%	為替相場の動向		8.0%	5.0%	16.7%	4.0%	2.0%	1.0%	0.0%
								4.7%	その他		4.5%	2.0%	6.7%	2.0%	9.0%	3.0%	5.4%

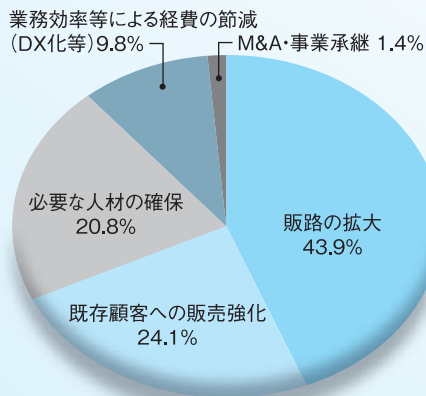


来年度に重点的に取り組んでみたい項目をお答えください。

～「販路の拡大」43.9%、
「既存顧客への販売強化」24.1%、
「必要な人材の確保」20.8%～

「来年度に重点的に取り組んでみたい項目」について聞いたところ、
「販路の拡大」と回答した企業割合は43.9%となった
(業種別では、不動産業57.7%と高く、次いで卸売業56.7%)。
「既存顧客への販売強化」と回答した企業割合は24.1%となった
(業種別では、小売業35.3%と高く、次いで金属機械工業27.1%)。
「必要な人材の確保」と回答した企業割合は20.8%となった
(業種別では、建設業40.5%と高く、次いでサービス28.8%)。

来年度に重点的に取り組んでみたい項目をお答えください



業種 × 来年度に重点的に取り組んでみたい項目をお答えください。

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	46.5%	48.2%	56.7%	45.3%	29.8%	33.5%	57.7%
販路の拡大	25.0%	27.1%	21.7%	35.3%	24.2%	16.5%	18.5%
既存顧客への販売強化	15.0%	16.6%	14.2%	12.7%	28.8%	40.5%	9.2%
必要な人材の確保	11.5%	7.0%	6.7%	5.3%	16.2%	8.5%	11.5%
業務効率等による経費の節減(DX化等)	2.0%	1.0%	0.8%	1.3%	1.0%	1.0%	3.1%
M&A・事業承継							

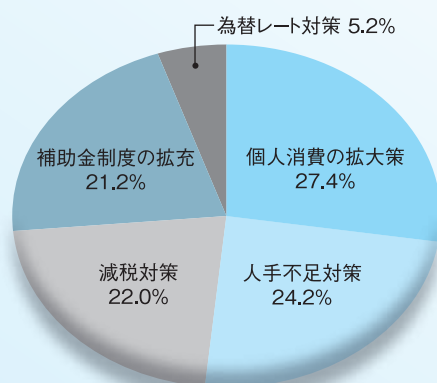


来年度に向けて期待する政策についてお答えください。

～「個人消費の拡大策」27.4%、
「人手不足対策」24.2%、
「減税対策」22.0%～

「来年度に向けて期待する政策」について聞いたところ、
「個人消費の拡大策」と回答した企業割合は27.4%となった
(業種別では、小売業61.7%と高く、次いで卸売業33.1%)。
「人手不足対策」と回答した企業割合は24.2%となった
(業種別では、建設業44.7%と高く、次いでサービス業28.6%)。
「減税対策」と回答した企業割合は22.0%となった
(業種別では、不動産業29.5%と高く、次いで金属機械工業27.4%)。

来年度に向けて期待する政策についてお答えください



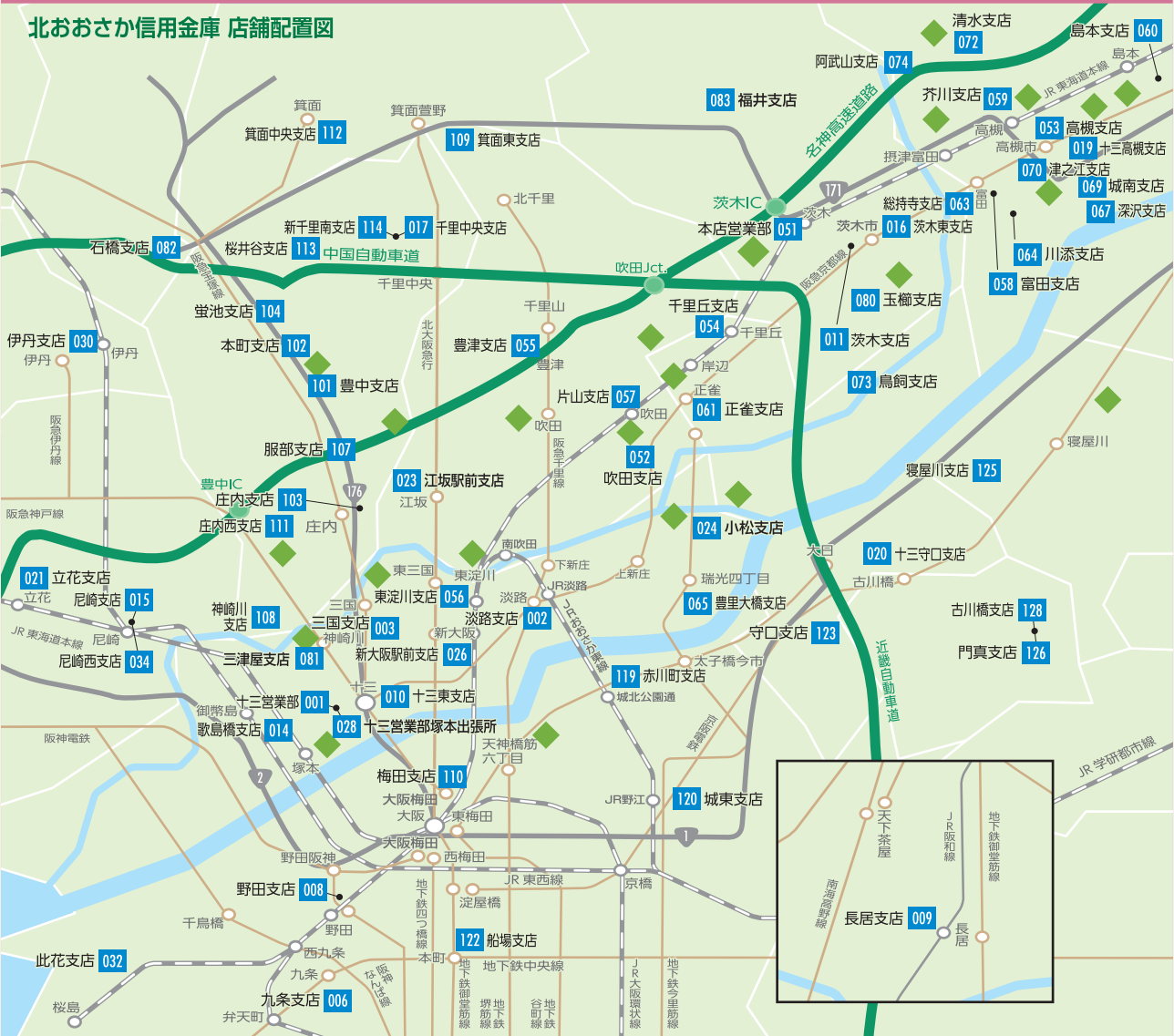
業種 × 来年度に向けて期待する政策についてお答えください。

業種	製造業	金属機械工業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
合計	17.7%	8.1%	33.1%	61.7%	32.2%	8.0%	49.6%
個人消費の拡大策	20.7%	28.4%	11.9%	12.8%	28.6%	44.7%	9.3%
人手不足対策	24.7%	27.4%	13.6%	14.1%	17.1%	24.6%	29.5%
減税対策	28.3%	30.5%	21.2%	10.1%	20.6%	20.6%	10.9%
補助金制度の拡充	8.6%	5.6%	20.3%	1.3%	1.5%	2.0%	0.8%
為替レート対策							

地域密着を信条とした65か店のネットワーク

店舗のごあんない

北おおさか信用金庫 店舗配置図



(2025年1月現在)

店外ATM

- | | | | | |
|----------------|----------------------|------------|-----------|-------------|
| ◆ 吹田市水道部出張所 | ◆ アクトアモール出張所 | ◆ 小曾根出張所 | ◆ 庄内栄町出張所 | ◆ 上牧出張所 |
| ◆ 吹田市役所出張所 | ◆ 関西スーパー西冠店出張所 | ◆ 三国商店街出張所 | ◆ 旭丘出張所 | ◆ 香里出張所 |
| ◆ イズミヤ千里丘店出張所 | ◆ サバイ出張所 | ◆ 神崎川駅前出張所 | ◆ 相川出張所 | ◆ JR吹田駅前出張所 |
| ◆ フレンドマート岸辺出張所 | ◆ マルヤス宮田店出張所 | ◆ 毛馬出張所 | ◆ 塚本駅前出張所 | |
| ◆ イオン高槻店出張所 | ◆ イオン茨木ショッピングセンター出張所 | ◆ 大池出張所 | ◆ 江口出張所 | |

営業地域(地区別) 大阪府: 大阪市、茨木市、高槻市、吹田市、豊中市、箕面市、池田市、守口市、門真市、摂津市、寝屋川市、大東市、東大阪市、枚方市、八尾市、交野市、四條畷市、堺市、松原市、三島郡、豊能郡
兵庫県: 尼崎市、伊丹市、川西市、西宮市、宝塚市、川辺郡
京都府: 向日市、長岡京市、乙訓郡大山崎町

発行日 2025年1月31日
発行 北おおさか信用金庫 総合企画部
住所 〒567-8651 茨木市西駅前町9-32
電話 072-623-4981(代)
ホームページ <https://www.kitaosaka-shinkin.co.jp/>
編集 株式会社 きたしん総合研究所

